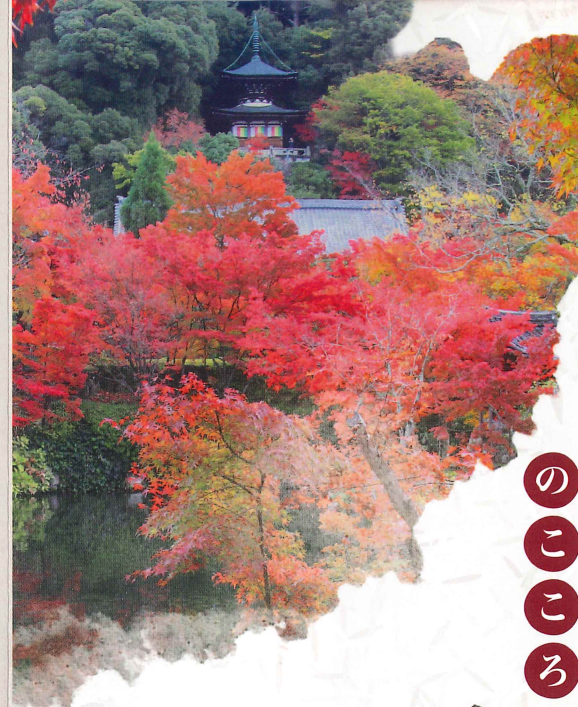


み
か
え
り
阿
弥
陀
さ
ま
の
こ
こ
ろ

永観堂の仏様は、世界でも珍しい、振り返られたお姿です。「みかえり阿弥陀」と呼ばれるこの仏様は、なぜ振り返っておられるのでしょうか。そこには、さまざまな思いや願いがこめられているのです。

たとえば、おくれる者たちを待つ姿勢。自らの位置をかえりみる姿勢。愛や情けをかける姿勢。思いやり深く周囲をみつめる姿勢など、今に生きる私たちにも、まっすぐに伝わる仏様の心が、教えとなって伝わっています。



四季折々の見どころと主要な行事

春

桜の季節。あたたかな日差しの中、ゆったりと境内散策をお楽しみください。
●御忌会 4月22日～25日



青もみじのあざやかな緑が輝きます。緑蔭の中、爽やかな光と風を感じながら。
●緑蔭法話 8月1日～3日

夏

秋

「もみじの永観堂」のベストシーズン。あざやかに色づいていく紅葉を楽しんで。
●秋の特別寺宝展 11月上旬～12月上旬



雪の永観堂もまた格別の景色。四季の彩りを見せた寺内が静寂につつまれます。
●除夜会 12月31日

冬



- JR「京都」駅から市バス5番で「南禅寺・永観堂道」下車、歩いて3分
- 地下鉄烏丸線「京都」駅から「烏丸御池」駅で地下鉄東西線「六地蔵」方面行きのりかえ、「蹴上」駅下車、歩いて15分
- 京阪電車「三条」駅から市バス5番で「南禅寺・永観堂道」下車、歩いて3分
- 京阪電車「神宮丸太町」駅から市バス204、93番「東天王町」下車、歩いて8分

浄土宗西山禅林寺派
総本山 永観堂 禅林寺

〒606-8445 京都市左京区永観堂町48
TEL (075) 761-0007 FAX (075) 771-4243
URL <https://www.eikando.or.jp/>



表紙写真／水野秀比古

浄土宗西山禅林寺派
総本山 永観堂 禅林寺



永観堂 禅林寺、千百有余年、祈願の時。

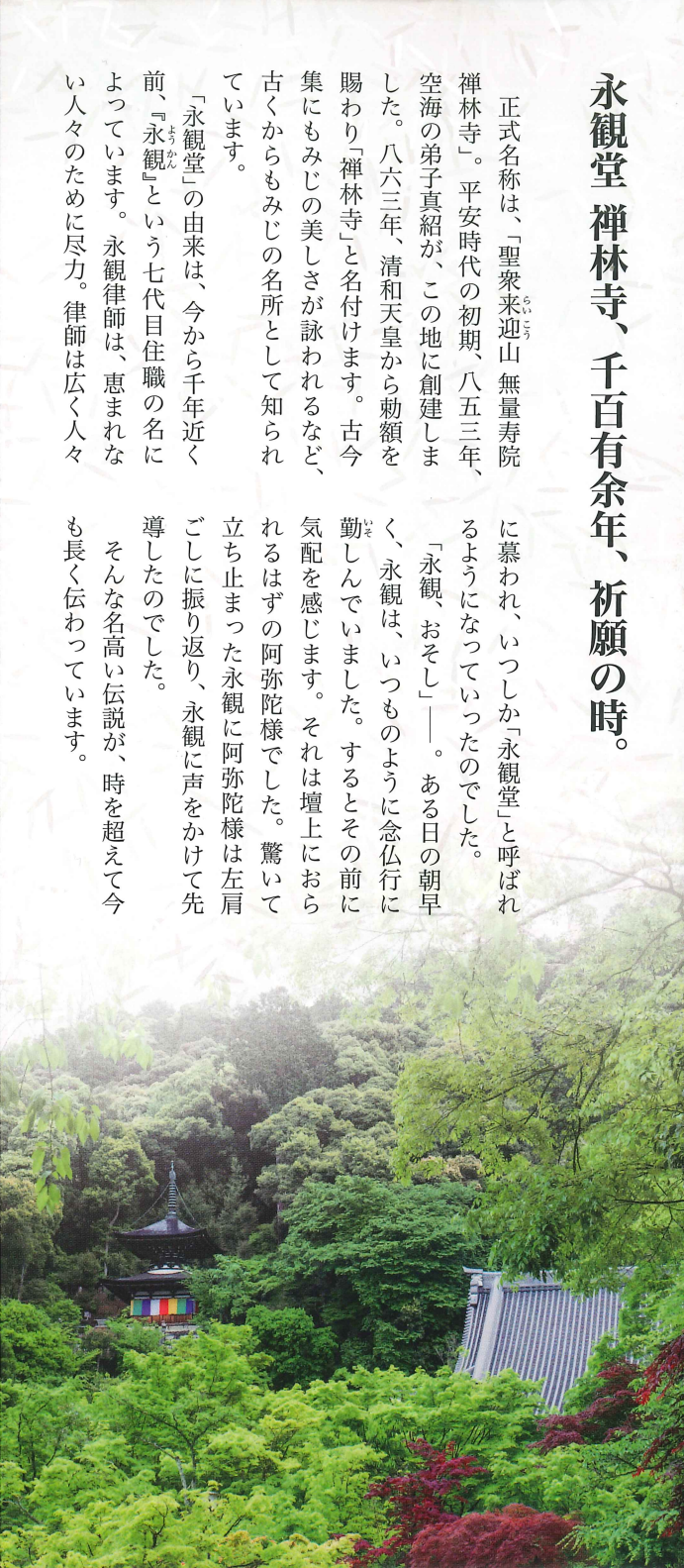
正式名称は、「聖衆来迎山 無量寿院 禅林寺」。平安時代の初期、八五三年、空海の弟子真紹が、この地に創建しました。八六三年、清和天皇から勅額を賜わり「禅林寺」と名付けます。古今集にもみじの美しさが詠われるなど、古くからもみじの名所として知られています。

「永観堂」の由来は、今から千年近く前、「永観」という七代目住職の名によっています。永観律師は、恵まれな人々のために尽力。律師は広く人々

に慕われ、いつしか「永観堂」と呼ばれるようになっていったのです。

「永観、おそし」。ある日の朝早く、永観は、いつものように念仏行に勤しんでいました。するとその前に気配を感じます。それは壇上におられるはずの阿弥陀様でした。驚いて立ち止まった永観に阿弥陀様は左肩ごしに振り返り、永観に声をかけて先導したのです。

そんな名高い伝説が、時を超えて今も長く伝わっています。



境内のご案内

東山の峰を背景に、総門から中門へ。諸堂をめぐる多宝塔へのぼり、京の街を一望できます。四季折々の草花や木々、緑と水に恵まれた美しい庭とともに数々の寺宝や史跡をゆっくりとご鑑賞いただけます。



永観堂キャラクター
「ようかんちゃん」



永観堂七不思議を感じながら。

長く伝わる七不思議。そのいわれや真偽、不思議を体感することができます。

- ①「**抜け雀**」(古方丈)・②「**火除けの阿弥陀**」(瑞紫殿)・
- ③「**悲田梅**」(勅使門横)・④「**木魚蛙**」(三鈷の松横)・
- ⑤「**三鈷の松**」(水琴窟前)・⑥「**臥龍廊**」(開山堂)・
- ⑦「**岩垣もみじ**」(山の斜面)。

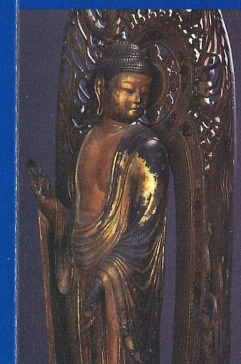
見どころとポイント

『みかえり阿弥陀』として知られている 本尊・阿弥陀如来立像。

体は、正面に向けて来迎印を結び、左肩を少し落として左に振り返り(みかえり)、後ろ側の床方向に視線を落とす、全国でも珍しい姿の立像です。慶派など異なる系統の、高い技量の仏師による作と考えられます。

平安後期～鎌倉前期 像高 77cm

重要文化財



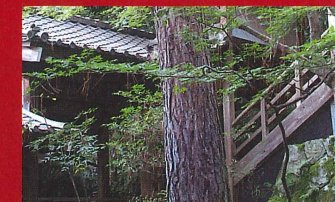
多宝塔
御影堂脇から140段のぼった山腹に位置し、京都市街が一望できる。上部は円形、下部は方形の二重塔。



臥龍廊【永観堂七不思議⑥】
山腹の斜面に沿い巧みに木組みされた廊下。龍の胎内を歩いているような不思議な気分が体感できる。



阿弥陀堂
本尊「みかえり阿弥陀」がまつられている本堂で大阪・四天王寺から移築された。格天井に描かれた「百花」も必見。



三鈷の松【永観堂七不思議⑤】
葉先が三つに分かれた珍しい松の古木。葉を持っていると「智慧・慈悲・真心」の3つの福を授かるといわれている。



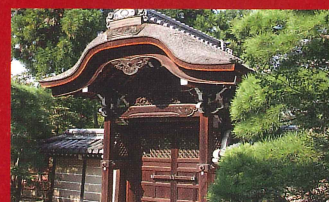
御影堂
境内最大。総檜造りの和様・禅宗様の折衷建物。堂内48本の丸柱は、阿弥陀の四十八願に由来している。



火除けの阿弥陀【永観堂七不思議②】
元は、五体の仏像を安置していたが、応仁の乱で一体だけが奇跡的に焼け残ったため特に崇拝されている。



悲田梅【永観堂七不思議③】
永観律師は、境内の梅の木になる実を、恵まれない人々に施したと伝わる。今も境内で毎年、可憐な実をつける。



唐門(勅使門)
本来は、天皇の使い、勅使を迎えるための門。勅使は、釈迦堂との間に盛られた白川砂を踏んで身を浄めて中へ進んだという。



放生池
池上に弁財天をまつることから、弁天池とも。鯉泳ぎ、樹々の彩りの変化を映す水面が美しい。池畔には与謝野晶子の歌碑がある。